

キミはまだ

0%

オモシロ中小企業

26

選

の会社を
知らない



ラムネ製造で創業した先代のを継ぎ、もやし製造・販売で軌道に乗せたのが中田社長。食料自給率のアップや地域雇用など、本業を通して社会貢献を行う。

「マーケティングでできる農家が作る農業スタイルの農業」

株式会社 サラダコスモ

創業: 1945年
 所在地: 岐阜県中津川市千旦林1-15
 ☎0573-66-5111
 代表取締役社長 中田智洋氏 Tomohiro Nakada

可能性を感じた新しい野菜・チコリ

「サラダコスモは農家です」と言われて感じた違和感は、続けて社長が言った「マーケティングでできる農家なんです」という言葉で納得に変わった。単に野菜を作っただけでなく、自ら加工や販売もする。加えて、社会や地域に貢献する仕事をしたいという利他の心を持っているのが、中田社長とサラダコスモの魅力だ。

社長がオランダで出会ったチコリを日本で製造しようと考えたのは、食料自給率の低さへの危惧から。「チコリを日本でも作れば、わずかだが自給率を上げることができる」と考えたのだ。当時、国内でチコリを作っている農家はなかったため、「誰も作っていないということは、競合がないということ。マーケティング的にも可能性があると思っただけ。主力商品であるもやしやカイワレとそっくりな生産方法だったことも背中を押した。当初は知名度が低く、思ったように売り上げが上がらなかったが、2006年にチコリを使った料理が食べられるレストランや加工品販売のショッ

プロが入った商業施設「ちこり村」

これが成功。今では年間25万人の人が来場している。チコリは、お茶やお菓子などの加工品を含めると、約6億円の売り上げにまで成長している。

まず足もとから取り組む社会貢献

「日本が食料危機に陥ったときアルゼンチンから輸入できるように作る」と、2000年に、アルゼンチンで農業を始める人を支援する会社を作りました。けれど、ある時ふと、「自分の足もとのことはしっかりできているんだらうか?」という疑問が浮かんだのです。地元である中津川には、働きたくても仕事がない高齢者や休耕地がたくさんある。これを活かすことが、自分にできる社会貢献なんじゃないかと思ひました。と、語る中田社長は、ちこり村では地元の高齢者を多く雇用。さまざまな世代の人がいきいき動き、「コミュニティ形成にもつながっている。元気なおばちゃん社員に、若手社員も盛り上げてもらっているようにです。」



佐藤一斎の教え

サラダコスモがある中津川市の隣、恵那市の岩村町出身の儒学者、佐藤一斎。彼の教えに共感した中田社長がちこり村の一部を展示スペースにしている。人生は志、理想を追い求め続けることが大事だと説いている。

マーケティングと利他の心を武器に、利益をしっかりとあげながら、社会にも貢献する。サラダコスモは、農家の新しいカタチになるだろう。

社会貢献への想いの強さに共感!

ちこりの生産という明確な経営ビジョンを軸に、社会や地域に貢献しようという中田社長の強い想いに触れ、力強さを感じました。



記者の視点
 名城大学4年 氏原翔平

- Take Action!
- ✓ 会社見学
 - ✓ インターンシップ
 - ✓ 逆指名型求人
 - 資料請求
 - ✓ 社長面会
 - ✓ その他

取材ごぼれ話 中田社長がチコリを気に入ったのは「量しているようなカタチも理由のひとつ。」